

## 第 111 回 REAAA 評議員会出席報告

黒 田 孝 次\*

### はじめに

アジア・オーストラレイシア道路技術協会 (Road Association of Asia and Australasia:以下,「REAAA」という。)の第 111 回評議員会が 2019 年 10 月 4～5 日にアラブ首長国連邦アブダビ・National Exhibition Center Abu Dhabi において開催された。併せて, REAAA・ヤング・プロフェッショナル会議 (以下,「YP 会議」という。)も開催された。今回は世界道路会議 2019 (PIARC World Congress 2019) と共同開催する特別セッション (Special Session on Road Infrastructure Resilience at 26<sup>th</sup> world congress) が REAAA と PIARC の協調プログラムの 1 つとして開催され, 両組織から多くの参加者を集めた。

この評議員会には日本から橋場 REAAA 副会長 (日本道路協会 代表評議員), 舗装技術小委員会の神谷委員長, レジリエンス小委員会 (Climate Change, Resilience and Emergency Management Committee) の田村委員, そして黒田 (高速道路調査会 代表評議員) が出席し, YP 会議には中日本高速道路(株)から野田氏が出席した。

### 第 111 回評議員会 (10 月 5 日, 13:00～16:45)

#### (1)会議の開催

①Momo・REAAA 会長がフィリピン国会議員 (Lower House) に選出されたため, フィリピンの道路協会会長が Mr.Willy Go から Ms.Maria Cabral (現 DPWH Under-secretary) に代わり, フィリピンは 50 名以上のオブザーバーが評議員会に出席した。

②評議員会には PIARC の Van Rooten 会長, IRF の Magid Elabyad (VP) も評議員会の冒頭に挨拶するなど, REAAA と PIARC, IRF との協調を確認できた。また, アブダビ公共事業省道路局も評議員会にオブザーバーとして参加した。

③遠距離アブダビでの開催で心配された評議員会への出席数は, 台湾が YP の Mr. Yu-Min だけになったほか, タイ, シンガポール, オーストラリア, ニュージーランド, ブルネイも欠席。その他の韓国, フィリピン, インドネシア, マレーシア, 日本の 5 カ国の評議員が出席したことから, 前回の台湾開催に比べて評議員は少数にはなったが, 主要国の参加と PIARC との協調から評議員会の体裁は整えることができた。

\* REAAA評議員

④マレーシアの REAAA 副会長の Mr.Roslan Md Taha は公共事業道路総局長を 10 月 1 日に退職し、当評議員会を欠席、総局長は空席のため、自動的に REAAA 副会長のマレーシア枠は空席になった。

## (2)議事録確認

台北で開催された前回の第 110 回評議員会は異議なく承認された。

## (3)財務長報告

2019 年 1 月から 8 月末時点の財務報告では、予算計画どおり進んでおり、予算額の 281,485 RM を超えることなく若干の黒字を見込んでいる。翌年 2020 年の予算額を 288,964 RM に計画しているが、健全な財務状況を維持するためには会費収入の増、広告収入の増を目指す。現時点の問題点はジャーナルとニュースレターへの広告収入が期待できないこと。このジャーナルとニュースレターは Web 上で配信して必要な印刷、配布経費を削減しているが、これらの発行を維持するためにはメンバー国の支援が必要である。また、その他の収入として、道路会議時の登録料のうち 5% を REAAA へ納入、RM 30,000 の REAAA 道路会議開催利益金からの REAAA への寄付、T-shirt などの REAAA グッズの販売などが紹介された。

## (4)事務総長報告

アブダビでの第 111 回評議員会実現のためにフィリピン道路協会との調整、2020 年 3 月にインドネシアにて第 112 回評議員会の開催のための調整、2020 年 9 月にニュージーランドで第 113 回評議員会開催のための調整を行った。このことから、2021 年 3 月にフィリピンで REAAA 道路会議および、第 114 回、第 115 回評議員会の開催の計画が整った。

## (5)技術委員会報告

委員長の Mr.Kieran Sharp が欠席するなか、3 つの技術小委員会から現況報告。先ずは、舗装技術小委員会からは神谷委員長から各国にアンケートを出すにあたっての留意点（簡単に答えられる内容、画像、写真を多用したデータの収集を目指す）の説明とアン

ケートが発出されたことの報告。

次に、レジリエンス小委員会田村委員からレジリエンスの委員会は 8 カ国からメンバーは集まったが、委員長が決められていない状態で、オーストラリアから委員長を出してもらおう案、その他の国から委員長を出してもらおう案があり、この PIARC 大会の後には議論が進むことを期待。

安全小委員会の委員長（マレーシア、Dr.Siti Zaharah Ishaak）からは、評議員会当日に、最初の委員会を開催する旨の報告。まだ委員をノミネートしていない国は速やかに行うように要請があり、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、そして台湾が直ちにノミネーションを提出することを約束。これにオーストラリア、マレーシアを含めて 7 カ国が委員会に参加することになった。

## (6)会員促進委員会報告

委員長の Mr.Sugiyartanto（インドネシア道路総局長）から会員の増減（2019 年 4 月～8 月の 5 カ月間）について説明。会員総数は 1,453 会員となり、前回評議員会時に比べて 11 会員の増、そのうちマレーシアの 2 組織会員、マレーシアの個人会員 21 名の増が特筆され、退会者 29 に対して 40 会員が入会したと報告（日本から 7 名の退会者）。

## (7)広告委員会報告

次に広告募集について、前回の第 110 回評議員会の中で、各国から最低 1 つの広告を出す、またニュースレターとジャーナルは、広告収入などで予算が確保された場合にのみ発行する、が決定していた。しかし、実際にはマレーシア（Minconsult）から 2,000 RM の



評議員会の様子

Web上の広告があったのみ。このことから、ニュースレターとジャーナルの発行を継続させるため1カ国当たり最低1広告(2,000RM)をお願いしたい(欠席したマレーシアのMs. Nik Jaffarに代わって事務総長から報告とお願い)。

#### (8)フェローシッププログラム

マレーシアのMr.Denis Ganendraから説明があり、今回の第112回評議員会、次々回の第113回評議員会、さらに2021年のREAAA道路会議に向けて、このプログラムへの寄付の申し出を期待している。第112回評議員会もしくは第8回ビジネスフォーラム(インドネシアでの開催)のためにマレーシアから2名分のフェローシップを予定していることが報告された。

#### (9)Web-site

フィリピンのMr.David Sanchezからの説明で、結論として、現在のREAAAのWeb-siteは(reaaa.org)あるいは(reaaa.net)で問題なく機能している。その中で大きなボリューム(ジャーナルや技術報告書など)のファイルはarticles.reaaa.orgに格納されており、各国に与えられたパスワードで会員が参照できるようになった。

#### (10)ニュースレター

韓国が担当しているニュースレターについて韓国道路協会のMs.IO Songから説明。次のニュースレターは<REAAA Newsletter 2019- 2>となるが、このニュースレターはこの第111回評議員会の内容も含めて10月31日を締め切りとして原稿を募りたい。そして12月15日までに発行にこぎ着けたいと説明があり、日本からは片平論文賞(黒田担当)、三野ベストプロジェクト賞(橋場担当)の原稿を用意する。

#### (11)片平・三野基金

黒田から報告。両基金はStandard Chartered Bank Singaporeの定期預金として貯金されており、片平基金の現残額はGBP36,881.47(日本円では516万円)、三野基金はUSD34,863.22(日本円では376万円)とそれぞれポンドとドルの基金になっており、片平基金

はブリエグジットの影響で以前に比べて25%程度の評価減が見られるが、その金利で少しずつ額を増やしている。また、片平賞と三野ベストプロジェクト賞の賞品、賞金については、必要額を日本の企業からの寄付もあり、過去から両基金には一切手をつけていないことを報告。

#### (12)片平技術論文賞

黒田から報告。片平賞論文評価委員会の委員についてはMr.Kieran Sharp(オーストラリア)を委員長に日本、インドネシア、マレーシア、台湾、およびフィリピンの6カ国6名がノミネートされ、評議員会で承認。フィリピンは道路会議に備えて国内論文評価委員会を立ち上げ、その中から1名を指名して片平論文評価委員とすることに評議員会で確認。

#### (13)三野ベストプロジェクト賞

橋場氏から報告。三野ベストプロジェクト賞は前回と同様<High-volume road>と<Community-road>の2つのカテゴリーに分けて賞を付与する。その評価項目、評価方法についても提案され、評議員会で承認。なお、評価委員会は橋場委員長ほか、オーストラリア、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾からの7カ国からなることが確認され、この賞の対象となるのはREAAA当期の過去4年間(ノミネート期限の2020年7月までに完成したプロジェクト)に限られることが再確認された。

#### (14)Hwang基金およびREAAA-Hwang賞

韓国チャプター会長のMr.Sung-Hwan Kimから報告。REAAAの名誉会員であり、現推薦評議員でもあるHwang氏から約USD90,000の寄付があり、受賞者にUSD10,000の賞金が副賞として付与されること。その評価委員会の委員の構成などについては、前回評議員会までに確認されているが、今回はスケジュールについて示された。2020年7月までの推薦募集、2020年末に受賞者を決定。2021年3月のマニラにおけるREAAA道路会議において表彰式との計画が確認された。REAAA会員で道路および付属物の計画、デザイン、建設、維持管理に長年にわたり特別に功勞





評議員会の参加者

あり、国際的に REAAA 活動を実践した人物（物故者は含まず）が受賞することになり、その選考には大変な労を要することが見込まれる。

#### (15)今後のスケジュール

第 112 回評議員会、第 113 回評議員会、第 16 回 REAAA 道路会議に向けてのスケジュール、その他が確認された。第 112 回評議員会は 2020 年 3 月にインドネシアで開催することが最終的には確認された。当初のインドネシア案は 2020 年 6 月 24～25 日にジャカルタで PIARC との合同セミナー、第 14 回 HORA 会議と併せて評議員会を開催するものであったが、2021 年 3 月の道路会議に備えて諸々の決定事項が決議されるタイミングとしては 6 月末では遅いとの意見が多く出て、最終的には 2020 年 3 月の第 112 回評議員会開催を了承。第 113 回評議員会はニュージーランドにおいて、2020 年 9 月 21～23 日（月～水曜日）の開催。21 日にはビジネス・フォーラム、そして NZ チャプター・ロードショウ、22 日には YP 会議、評議員会、そして 23 日にはテクニカル・ツアーが計画されている。

#### (16) Call for Papers と 第 16 回 REAAA 道路会議の First Announcement

フィリピンチャプターから提案があり、10 月末に論文募集開始、道路会議の公示を行うことで確認がされた。内容は 2021 年 3 月 17～19 日にマニラ（マリオットホテル・マニラ）において REAAA 道路会議を開催、今回のテーマは「Shaping the Future of



Road Engineering with Advanced Technology」と決められた。実際の広報は 12 月に発行されるニューズレターが始まりとなるが、First Announcement が第 111 回評議員会で認められたことにより、PIARC の REAAA ブースでは早速そのコピーが配られた。

#### (17)YP 会議

マレーシアの Mr.Hamza をチェアとしてマレーシア、インドネシア、フィリピン、台湾、日本の YP 合計 20 名が参加した。その中で、NEXCO 中日本の野田氏が東京外環プロジェクトの紹介を行った。YP 会議の中では YP の REAAA 会員費について、正会員と YP 会員で会費の差をつけることなど、会費の額からも各国で YP 会員の確保に苦勞している現状が報告された。一方で、YP 会員活動の活性化のために技術小委員会への参加、あるいは YP 会議が小委員会の 1 つになってデジタル技術の道路技術への適用など、YP が得意とするところで REAAA に貢献すべきなどの意見も出された。

#### さいごに

全体の印象としては 2021 年 3 月の REAAA 道路会議に向けて、その準備が無難にスタートできたこと、次期会長候補も含めて日本への期待が引き続き大きいこと、財政状況は黒字に転換して安定した財政状況になったこと、さらに技術委員会の 3 つの技術小委員会（舗装技術、レジリエンス、および交通安全）が構成され、その活動が始まったことなど、まずまずの中間報告ができたのではないかと。そして、第 16 回 REAAA 道路会議にむけて First Announcement が承認され、Call for Papers が始まった。中間報告から 2021 年の REAAA 道路会議に向けて、後半戦がスタートしたと言える。片平技術論文賞では前回、前々回、いずれも日本から最優秀論文賞が選ばれた。次回、2021 年 3 月にも同じ栄誉を得られるように広く論文提出を呼び掛けたい。また前回の三野ベストプロジェクト賞は日本の企業が多く貢献したハノイのニャットン橋、日本の舗装技術が採用されたモンゴルの住民参加型の道路整備が選ばれている。次回も日本が関わりのあるプロジェクトが受賞することを祈りたい。